

# 安齋育郎教授略歴・主要著作目録

## 略 歴

1940年 4月	東京都にて出生
1964年 3月	東京大学工学部原子力工学科卒業
1964年 4月	東京大学大学院数物系研究科原子力工学専門課程入学(修士課程)
1966年 3月	東京大学大学院工学系研究科原子力工学専門課程修了
1966年 4月	東京大学大学院工学系研究科原子力工学専門課程博士課程入学
1969年 3月	同課程修了。博士号取得(工学)
1969年 4月～1986年 3月	東京大学医学部放射線管理学教室文部教官助手， この間東京都立放射線技師学校非常勤講師，中央大学商学部兼任 講師，東京医科大学客員助教授などを務める。
1986年 4月～1988年 3月	立命館大学経済学部教授
1988年 4月～	立命館大学国際関係学部教授 現職
1992年 5月～1995年 3月	立命館大学国際平和ミュージアム館長代理
1995年 4月～	立命館大学国際平和ミュージアム館長 現職

## 所 属 学 会

日本保健物理学会 日本原子力学会 日本平和学会 日本シミュレーション&ゲーミング学会  
Japan Skeptics

## 受 賞 歴

文化・情報事業功労者記章(ベトナム社会主義共和国 2004)

## 業 績 一 覧

### 単著

- 『X線技師のための数学 RI計算を中心として』駒沢大学附設駒沢X線技師学校アイソトープ研究会 1966
- 『放射線取扱技術研修会教科書 X線技師のための数学 RI計算を中心として』放射線取扱技術研修会 1966
- 『放射線技師のための化学』放射線取扱技術研修会 1968
- 『測量数学教程』中央法学院 1972
- 『放射線技師のための物理学』放射線取扱技術研修会 1972
- 『原発と環境』ダイヤモンド社 1975.7
- 『放射線取扱技術研修会教科書 放射線管理・測定技術』放射線取扱技術研修会 1976
- 『からだのなかの放射能』合同出版 1979.1
- 『中性子爆弾と核放射線』連合出版 1982.9
- 『社会・未来・わたしたち 4 核戦争と地球 平和をまもるために』岩崎書店 1986.4
- 『人はなぜ騙されるのか』(朝日文庫)朝日新聞社 1996.12
- 『放射能そこが知りたい』(かもがわブックレット12)かもがわ出版 1999.11
- 『「科学する心」を育てる』全日本民主医療機関連合会 2000.9
- 『不思議現象の正体(トリック)を見破る 超能力や心霊現象に、人はなぜ騙されるのか』河出書房新社 2001.5
- 『科学と非科学の間』(ちくま文庫)筑摩書房 2002.8
- 『霊はあるか 科学の視点から』(ブルーボックス)講談社 2002.9
- 『こっくりさんはなぜ当たるのか』水曜社 2004.7
- 『ビジュアルブック 語り伝えるヒロシマ・ナガサキ 全5巻』新日本出版社 2004.10
- 『騙される人 騙されない人』かもがわ出版 2005.6
- 『だます心 だまされる心』(岩波新書)岩波書店 2005.6

### 共著

- 『日本の原子力発電 安全な開発をめざして』新日本出版社 1974.7 中島篤之助との共著
- 『原子力を考える』新日本出版社 1983.1 中島篤之助との共著
- 『地球非核宣言』水曜社 1986.5 森下一徹との共著
- 『戦争から平和へ 21世紀の選択』(かもがわブックレット68)かもがわ出版 1994.5 藤原彰との共著

- 『アジア・女性・沖縄が問う日本』(かもがわブックレット93)かもがわ出版 1996.5 朱建栄, 村山晃, 姜尚中, 松井やよりとの共著
- 『どう見るインド・パキスタン核実験』(かもがわブックレット117)かもがわ出版 1998.8 藤田明史, 吉田ゆきとの共著
- 『日本は危機か』かもがわ出版 1999.8 ヨハン・ガルトウングとの共著
- 『ホーチミン市の戦争証跡博物館ガイドブック』ウィンかもがわ 2003.11 鈴木元との共著
- 『イラク後のアメリカの戦略と世界平和』かもがわ出版 2004.7 松村博行, 佐藤史郎との共著
- 『戦争と芸術「いのちの画室(アトリエ)から」』かもがわ出版 2005.5 窪島誠一郎との共著

### 単編著

- 『図説原子力読本 これでもいいのか原子力開発』合同出版 1979.2
- 『核兵器はなくせませす 平和・核問題学習テキスト』日本生活協同組合 1985

### 共編著

- 『原発事故の手引』ダイヤモンド社 1980.3 小野周との共編
- 『放射線のやさしい知識』オーム社 1984.5 飯田博美との共編
- 『原子力発電 知る・考える・調べる』合同出版 1985.8 日本科学者会議編
- 『核言集』大月書店 1989.6 塩田庄兵衛, 井出洋との共編
- 『Q&A 核兵器のない世界を』(かもがわブックレット99)かもがわ出版 1996.8 被爆50年国際シンポジウム日本準備委員会編 野口邦和, 永田忍と共編及び執筆を担当
- 『クラルテ運動と「種蒔く人」反戦文学運動「クラルテ」の日本と朝鮮での展開』御茶の水書房 2000.4 李修京との共編

### 監修

- GHQ/SCAP TOP SECRET RECORDS IV(3-30)* (GHQトップ・シークレット文書集成 第4期) 柏書房 柏書房 1998.2
- GHQ/SCAP TOP SECRET RECORDS IV(3-30)INDEX* (原爆と日本の科学技術関係文書インデックス/解説) 柏書房 1998.2

### 翻訳

- 『看護学翻訳論文集 看護の研究』現代社 1968 安齋育郎ほか訳
- 憂慮する科学者同盟(UCS)編『原発の安全性への疑問 ラスムッセン報告批判』水曜社 1979.6 日本科学者会議原子力問題研究委員会訳

ジョセフ・ロートブラット著『核戦争と放射線』東京大学出版会 1982.12 小野周監訳  
ジョセフ・ロートブラット他編著『核兵器のない世界へ』かもがわ出版 1995.11 小沼通二他監訳  
メアリー・バーマイヤー・オブライエン著『非戦の人 ジャネット・ランキン アメリカの良心と呼ばれた女性』水曜社 2004.8 南部ゆりとの共訳

## 分担執筆

日本科学者会議編『技術論セミナー1「現代技術と技術者」』青木書店 1971.10「日本の技術者の現状」  
原子力発電問題シンポジウム実行委員会『原子力発電問題若狭シンポジウム報告集 原子力発電所の集中化と環境破壊』1974「許容線量をどう考えるか リスク・ベネフィット・バランス理論」  
三宅泰雄, 中島篤之助編『原子力発電をどうかんがえるか』時事通信社 1974「原子力の安全性 安全性を総点検する」  
日本科学者会議『原発問題シンポジウム(福島)報告集 危機における原子力発電と地域開発』1976「原発の安全性」  
シンポジウム事務局『原子力船「むつ」問題を考える シンポジウム報告集』1976「オットー・ハーンとむつ」  
相賀徹夫編集『万有百科大事典』16(物理・数学)小学館 1976「放射線障害」  
加藤邦興他共編『現代環境工学概論』オーム社 1978.4「環境の測定技術3・7~3・21」  
日本科学者会議原子力問題研究委員会・日本原子力研究所労働組合共編『第5回原発問題シンポジウム(島根)新しい危機における原発 エネルギー政策と漁業問題をめぐって 報告要旨集』シンポジウム実行委員会 1977.8「(報告)環境放射能監視の実態とあり方」  
I.Anzai and T.Kikuchi, *Surface Contamination: Genesis, Detection, and Control*, Plenum Publishing 1979 (Test Surface法に関する研究を分担執筆)  
日本科学者会議原子力問題研究委員会『敦賀原発の意味するもの』1981「放射能による汚染の実態はどうだったか」  
日本科学者会議編『核 知る・考える・調べる』合同出版 1982.5  
陸井三郎, 服部学編『核で核は防げるか』三省堂 1982.8「中性子爆弾の原理と構造」  
片平洸彦編『改訂増補版 現代の保健 いのち・健康・平和』篠原出版 1984.4「第 章 人類最後の疫病 核戦争を防止し, 平和に生きるために」  
日本科学者会議トマホーク研究会編『トマホーク研究 No.1』1984.7「トマホーク核弾頭の爆発の影響」  
日本保健物理学会『日本学術会議の動きと日本保健物理学会』1985.5「はじめに」

- 日本科学者会議編『SDI スターウォーズの科学・政治・経済』大月書店 1987.4「第7章核廃絶への展望」
- 泉邦彦・雀部晶編『新「学問のススム」3 自然を考える』法律文化社 1987.12「5原子核小粒で巨大なエネルギー」
- 大江一道他編『ファミリー版世界と日本の歴史12 21世紀への扉 現代4』大月書店 1988.11「核問題と科学・技術」
- 日本科学者会議編『地球環境問題と原子力』リベルタ出版 1991.3「1.日本の原発推進の深部要因」
- 秋葉英則他編『講座青年 第4巻 青春はどこへ』清風堂書店 1990.10「『超能力』の世界の魔力」
- 伊東壮編『核の時代をどう生きるか 核兵器と原子力発電』(地球の環境問題7)ポプラ社 1991.4「核の谷間に生きる」
- 市川定夫監修『環境百科 危機のエンサイクロペディア』駿河台出版社 1992.11「放射線下降物」
- 関下稔他編集『プロブレマティーク国際関係』東信堂 1996.4「7 地球環境と現代世界」
- 日本科学者会議編『オウム・超常信仰と科学』清風堂書店 1997.8「第 章 オカルト・超能力を科学する」
- 畑田耕一・宮西正宜編『科学技術と人間かかわり』大阪大学出版会 1998.3「科学とはいかなるものか 超能力への批判とマジックの開示」
- 第3回平和博物館会議組織委員会『平和をどう展示するか：第3回平和博物館会議報告書』1999.3「日本とアジアの平和博物館」
- 沢田昭二他著『共同研究 広島・長崎原爆被害の実相』新日本出版社 1999.7「第6章 放射線の人間に対する影響」野口邦和氏と分担執筆
- 岩波書店編集部編『これからどうなる21 予測・主張・夢』(CD-ROM付)岩波書店 2000.1「平和のために何が可能か」
- 『小学国語 五年下』光村図書 2000「「なぜ」と問うところ」
- 日本青年団協議会『日本青年運動50年史(1951-2001)』2001.3「平和運動と領土返還運動」
- 朝日新聞社『アエラムック 平和学がわかる』2002.9「科学者は戦争協力を拒否できなかったのか」
- 西川長夫他著『グローバル化を読み解く88のキーワード』平凡社 2003.4「地球環境問題」
- 国民学校一年生の会編『昭和の「少国民」からのメッセージ』ケイ・アイ・メディア 2003.4「国民学校一年生世代の課題と使命」
- ヨハン・ガルトゥング・藤田明史編『ガルトゥング平和学入門』法律文化社 2003.9「平和研

究者がなぜ現代非合理主義批判に取り組むのか」

Coalition for Nuclear Disarmament & Peace, *Peace Now!* 2003, “Six Checkpoints on Nuclear Power Generation in Japan”

### 単著論文

- 「原子力発電所の運転と環境放射線」東京大学医学部原子炉施設の災害防止に関する研究 原子炉施設の災害防止の観点からみたわが国の原子力行政」『日本公衆衛生雑誌』13巻3号 1966.3
- 「原子炉施設の災害防止に関する研究 原子炉施設周辺の防災対策」『日本公衆衛生雑誌』13巻4号 1966.4
- 「基準値問題に対する統計的決定理論からのアプローチ」『原子力安全研究専門委員会報告書』（京都大学原子炉実験所）1970
- 「放射線生物研究と許容濃度」『放射線生物研究』9巻3号 1974.9
- 「MIRD法と内部被曝線量評価」『保健物理』10巻1号 1975
- 「MIRD法による内部被曝線量の評価」『日本放射線技術学会雑誌』36巻2号 1980.3
- 「軍事技術と戦略 米ソ核戦略の展開過程」『日本の科学者』19巻8号 1984.8
- 「核兵器廃絶の展望と日本の原水爆禁止運動」『立命館経済学』3巻4号 1986
- 「科学と信仰の間 現代合理主義と教育」『立命館国際研究』6巻4号 1994.3
- 「非合理主義批判の立場からみた物理リテラシー」『物理教育』43巻4号 1995
- 「立命館大学生および仏教各宗派の靈魂観」『立命館経済学』45巻6号 1997.2
- 「インド・パキスタンの核実験と日本の原水爆禁止運動の課題」『立命館経済学』47巻5号 1998.12
- 「鬼門の科学」*Journal of the JAPAN SKEPTICS* Vol.8 1998
- 「自己啓発」という名の狂信」*Journal of the JAPAN SKEPTICS* Vol.9 2000
- 「日本の仏教各宗派の靈魂に関する実証的研究」『1998年度 JAPAN SKEPTICS研究助成報告』2000
- 「戦時下の音楽家・映画人の価値観を考える」『立命館平和研究 立命館大学国際平和ミュージアム紀要』2号 2001.3
- “On the Re-evaluation of Damages of Atomic Bombing of Hiroshima and Nagasaki, and the significance and Limitation of Nuclear Winter Study” *International Scientific Symposium for Complete Prohibition and Elimination of Nuclear Weapons* 1985
- “Museums for Peace in Japan and other Asian Countries” *Ritsumeikan Journal of Asia Pacific Studies* Vol.3 1999.5

## 共著論文

- 「放射線管理実務におけるガラス線重量計の応用」『日本原子力学会誌』8巻1号 1966
- 「回折用X線装置の放射線管理計画に関する考察」『保健物理』2巻2号 1967
- 「放射線管理における測定の有する特殊性に関する考察」『保健物理』2巻3号 1967
- 「NaF粉末ペレット法による尿中ウラン分析」『日本原子力学会誌』9巻6号 1967
- 「体内汚染管理に関する情報理論的考察」『保健物理』3巻2号 1968
- 「外部被曝個人モニターによる測定値の評価に関する理論」『保健物理』3巻4号 1968
- 「科学研究費助成 正常日本人の体内放射性物質(特にカリウムおよびセシウム-137)の測定」  
『文部省科学研究費昭和43年度研究報告集放射線影響編』1969
- 「放射線管理の日常業務におけるホール・ボディ・カウンターの位置付けに関する考察」『保健物理』5巻4号 1970
- 「在院および待機患者の動態に関する研究」『病院管理』12巻3号 1975.7
- 「在院および待機患者の動態に関する研究(II)」『病院管理』12巻4号 1975
- 「等級別病床の配分に関する研究」『病院管理』13巻3号 1976.7
- 「東京医大病院における老人病患者の動態」『病院管理』14巻2号 1977
- 「東京都区内医療放射線施設の分布 立地と配分に関する基礎調査」『病院管理』15巻1号  
1978.1
- 「悪性新生物患者の動態」『病院管理』15巻7号 1978
- 「放射性薬剤投与と患者の管理」『病院管理』15巻10号 1978
- 「陶歯中のウランのFission Track法による定量と口腔粘膜への被曝線量の算定」『保健物理』  
14巻 1979
- 「放射性薬剤投与と患者の動態」『病院管理』16巻3号 1979.7
- 「日本の大学病院における産科病棟の実態」『病院管理』16巻10号 1979
- 「“審美性改善”のために人工歯に添加されているウランによる放射線被曝」『日本の科学者』  
16巻3号 1981.3
- 「当院のコンピュータ断層診断装置の現況」『病院管理』18巻4号 1981.1
- 「医療従事者の診療行為に伴う放射線 被曝線量の推移に見られる最近の特徴」『病院管理』  
18巻10号 1981.1
- 「ホンダワラによる放射能監視の手柄 敦賀原発事故に伴う浦底湾の放射能汚染」『日本の科学者』  
16巻10号 1981.10
- 「全身放射能計測装置による体内放射能の精密定量に関する研究(東京大学医学部)」『昭和56  
年度科学研究費補助金研究成果報告書』1982.3
- 「軽水型原子力発電所労働者の放射線被曝によるリスク」『日本の科学者』18巻2号 1983.2

- 「東京医科大学病院における老人患者の動態」『病院管理』21巻4号 1984.10
- 「広島原爆の爆発威力の評価 熱線の効果にもとづく推定」『保健物理』21巻2号 1986
- 「広島原爆の威力の新知見」『日本の科学者』21巻10号 1986.10
- 「放射線被曝線量はより低く」『朝日Modern Medicine』87年1月号 1987
- 「医療廃棄物に関する調査 道府県，政令指定都市の取り組み」『病院管理』28巻1号 1991.1
- 「タリウム201投与に伴う放射線被曝線量の評価」『病院管理』28巻3号 1991.7
- 「放射線」「放射能」に関する一般公衆の意識調査」『病院管理』31巻2号 1994.4
- 「日本産干椎茸中の放射性セシウムの地域分布に関する研究」*RADIOISOTOPES* 46巻5号 1997.5
- 「科学研究費助成基盤研究(C): 初等・中等教育における放射線・放射能の合理的教育法に関する調査・研究」1999.3
- 「食用キノコ類に起因する日本人の<sup>137</sup>Cs摂取量の分析とそれによる被曝量評価に関する研究」『環境科学会誌』13巻3号 2000
- 「カドミウム垂鉛テルライド半導体と符号化開口を用いたガンマカウンターによるRI断層情報の分析」*RADIOISOTOPES* 51巻11号 2002
- 「原爆被爆者集団訴訟の争点とその背景」『立命館平和研究 立命館大学国際平和ミュージアム 紀要』6号 2005.3
- “The Construction and Performance of the Whole Body Human Counter at Tokyo University” *Journal of Nuclear Science and Technology* Vol.3 No.3 1966
- “A TENTATIVE APPROACH FROM THE INFORMATION THEORY TO THE PROBLEM OF INTERNAL CONTAMINATION” *Health and Safety* Vol.3 No.2 1969.8
- “Measurement of <sup>226</sup>Ra Body Burden of a Japanese Who Was a Radium Worker between the Years 1934-1960” *RADIOISOTOPES* Vol.22 No.8 1973.8
- “Skeletal Does Estimation of the Patient Administered Ytterbium-169 Citrate for Tumor Diagnosis” *RADIOISOTOPES* Vol.23 No.1 1974.1
- “Estimation of Whole Body Absorbed Dose of the Patient Administered <sup>57</sup>Co-Bleomycin for Tumor Diagnosis” *RADIOISOTOPES* Vol.24 No.5 1975.5
- “Cesium-137 BODY BURDEN IN JAPANESE FROM 1967 TO 1975” *Health Physics* Vol.31 1976.11
- “Cesium-137 and Potassium Contents in Low-Teens in Areas of Different Fall-out Levels in Japan” *Journal of Radiation Research* Vol.18 1977.5
- “A New Monitoring Technique of Surface Contamination---The Test Surface Method” *Health Physics* Vol.33 1977.7

- “DETERMINATION OF URANIUM CONTENT IN DENTAL PORCELAINS BY MEANS OF THE FISSION TRACK METHOD AND ESTIMATION OF RADIATION DOSE TO ORAL MUCOSA BY RADIOACTIVE ELEMENTS” *Health Physics* Vol.38 1980
- “A comparative study of body composition of urban and rural Japanese boy 12 to 14 years old” *Annals of Human Biology* Vol.8 No.2 1981
- “<sup>137</sup>Cs in Japanese Temporary Resident of England” *Health Physics* Vol.45 No.1 1983
- “Correlation between Natural Radiation Exposure and Cancer Mortality in Japan ( )” *Journal of Radiation Research* Vol.27 1986.6
- “Correlation between Natural Radiation Exposure and Cancer Mortality(3)” *The journal of Nihon University School of Dentistry* Vol.28 No.4 1986.12
- “Correlation between Natural Radiation Exposure and Cancer Mortality(4)” *The journal of Nihon University School of Dentistry* Vol.29 No.1 1987.3
- “Correlation between Natural Radiation Exposure and Cancer Mortality(5)” *The journal of Nihon University School of Dentistry* Vol.29 No4 1987.12
- “Measurement of airborne radon concentrations at several sites in a radioactivity research laboratory” *Journal of Oral Science* Vol.41 No.2 1999
- “Concentration of <sup>137</sup>Cs in dried *Lentinula edodes* (Shiitake) as an indicator of environmental contamination” *Journal of Oral Science* Vol.43 No.2 2001.5

#### 学会発表・国際会議・シンポジウム等（単独）

- 日本保健物理協議会第5回研究発表会「管理方式に関する統計的決定理論からの考察」1970  
放射線生物学談話会・若手放射線生物学研究会シンポジウム「許容線量をどう考えるか？」  
1970
- 日本保健物理協議会第6回研究発表会「体内汚染の測定値と内部被曝線量の関係に関する確率論的考察」「外部被曝個人モニターの測定値と臓器吸収線量に関する確率論的考察」  
1971
- 日本保健物理協議会シンポジウム「内部被曝線量評価の問題点 - rem換算の問題点」1972
- 日本保健物理協議会パネル討論会「保健物理分野における計測のあり方について」1972
- 日本保健物理協議会シンポジウム「放射線管理と血液検査」1973
- 日本保健物理協議会第8回研究発表会「MIRD法による体内被曝評価と許容濃度」1973
- 日本保健物理協議会第9回研究発表会「戦前より夜光塗料作業に従事せる某作業者の体内汚染事例」「放射線安全に対する作業者の意識形成過程におけるモニタリングの役割」1974
- 日本保健物理学会第10回研究発表会「MIRD法データを日本人に適用する場合の若干の問題点」

- 「コバルト57 プレオマイシン投与に伴う被曝線量評価」1975
- 日本保健物理学会第11回研究発表会「ラプラス変換系における体内汚染解析モデルの再構成」  
1976
- 日本保健物理学会第12回研究発表会「放射体の皮膚汚染による吸収線量の評価」1977
- 第51回日本病院管理学会月例研究会報告「医療における放射線利用とカタストロフィー理論」  
1979
- 日本保健物理学会第19回研究発表会「放射性核種の分類 カテゴリカル判別分析の応用（ポスター発表）」1984.6
- 日本保健物理学会第20回研究発表会「原子力施設周辺の放射線量の時系列解析 不規則変動成分の相関」  
「保健物理関連データのスプライン関数による近似」1985.5
- 第13回国際生科学会議「核戦争の長期的生物学的影響」シンポジウム・パネル討論会 1985.8
- 日本平和学会1986年度春季シンポジウム「海と空と人間」1986.6
- 日本放射線技術学会第44回総会「診療用放射線の安全管理 医療放射線に対する患者の意識と安全管理の社会的意義」1988.3

#### **学会発表（研究発表会）・国際会議・シンポジウム等（共同）**

- 第38回日本産業医学会総会「分析用X線装置による職業性放射線皮膚障害例について」1965
- 日本原子力学会昭和40年年会「NaF-LiF混合粉末ペレット法による微量ウランの蛍光分析に関する基礎的研究」1965.4
- 日本保健物理協議会第1回研究発表会「東大ヒューマン・カウンターの性能」「放射線管理実務におけるガラス線量計の応用に関する検討」1966
- 日本原子力学会昭和41年年会「東大ヒューマン・カウンターの概要」「放射線管理のための微量ウラン分析法の検討 NaF粉末ペレット法を中心として」1966
- 日本保健物理協議会第2回研究発表会「東大ヒューマン・カウンターによる正常日本人の体内放射性物質とくにKおよび<sup>137</sup>Csの測定」「放射線管理における測定の有する特殊性に関する私見」「回析用X線装置の放射線管理計画に関する私見」1967.3
- 日本放射線影響学会第10回研究発表会「ヒューマン・カウンターによる正常な日本人の体内放射性物質とくにカリウムおよびセシウム137の測定」1967
- 第7回日本核医学会「Radioisotopeの診断的利用における被検者の被曝線量評価に関する考察」1967
- 日本保健物理協議会第3回研究発表会「体内汚染管理に関する情報理論的考察」1968
- 日本原子力学会保物分科会「外部被曝モニタリングにおける測定値の不確かさの評価に関する考察」1968

- 日本保健物理協議会第4回研究発表会「ヒューマン・カウンターによる東京および秋田地区正常日本人中学生の体内セシウム<sup>137</sup>量の比較」「大型2 プラスチック・シンチレータによる全身放射能測定の際の体格差による幾何学的効率の補正」「外部被曝および内部被曝管理における測定値に関する情報理論的考察」1969
- 日本放射線影響学会第12回研究発表会「中学生体内の<sup>137</sup>CsおよびK量の測定」1969
- 日本保健物理協議会第5回研究発表会「放射線管理の日常業務におけるヒューマン・カウンターの位置付けに関する一考察」「内部被曝の管理 各種事業所における内部被曝管理の実状」1970
- 日本保健物理協議会第6回研究発表会「敦賀発電所に設置した実務型ヒューマン・カウンターの構造および性能について」「実務型ヒューマン・カウンターの利用に関する考察」1971
- 日本保健物理協議会第7回研究発表会「表面汚染測定の新しい手法に関する検討」1972
- 日本放射線影響学会第16回大会「放射線によるマウス胎子の催奇効果に関する確率論的研究」1973
- 日本保健物理協議会第8回研究発表会「0.5mmPtカプセル<sup>226</sup>Ra標準線源からの線漏洩」「表面汚染モニタリングの新しい手法に関する検討(第2報) Test Surface法」「1967年以降のセシウム<sup>137</sup>体内量の推移」「Skeletal Dose Estimation of the Patient Administered Ytterbium-169 Citrate for Tumor Diagnosis」1973
- 第92回東京医科大学医学会総会「待機患者の推移に関する研究」1975
- 日本病院管理学会第13回総会「等級別病床配分に関する研究」1975
- 日本保健物理学会第10回研究発表会「放射線管理の観点から見た日本人の表皮厚について」1975
- 第39回日本病院管理学会月例研究会「医療放射線利用の問題点と病院管理の役割について」1976
- 第14回日本病院管理学会「等級別差額病床配分に関する統計理論的演習」「東京都内医療放射線施設の分布と立地に関する基礎的調査」1976
- 第19回日本放射線影響学会「フォール・アウト・レベルの異なる二地域における体内セシウム<sup>137</sup>およびカリウム量の比較に関する研究」「体内セシウム<sup>137</sup>およびカリウム量の季節変動に関する研究」1976
- 第42回日本民族衛生学会総会「血液値の季節変動について」「身体計測値等の季節変動について」1977
- 第14回理工学における同位元素研究発表会「皮膚に密着した体線源からの吸収線量」「metal bonded crown中の放射性物質による口腔粘膜の被曝線量」1977
- 日本保健物理学会第12回研究発表会「体内<sup>137</sup>CSおよび<sup>40</sup>K量の季節変動に関する研究」「フォー

- ル・アウト起源の<sup>137</sup>Cs体内量と<sup>137</sup>Cs降下量・降水量の関係」1977
- 第21回放射化学討論会「歯科用材料の放射化分析. 特に陶歯・陶材中のウラン等について」  
1977
- 放射線影響学会第20回大会「歯科用陶材中の放射性物質による被曝線量の評価」1977
- 第17回日本核医学会総会「MIRD法による線量評価に必要な臓器重量の身体計測値からの推定」  
1977
- 第15回日本病院管理学会総会「放射性薬投与患者の管理」1977.10
- 第16回日本病院管理学会「放射性薬剤投与患者の動態」1978.10
- 第17回日本病院管理学会「放射線職業被曝軽減についての病院管理学的考察」「看護学生の卒業進路志望の連想語調査による因子分析について」1979.10
- 第18回日本病院管理学会「医療従事者の診療行為に伴う放射線被曝線量の推移に見られる最近の特徴」1980.10
- 第19回日本病院管理学会「医療従事者の放射線被曝線量の統計的解析および放射線管理的視点からの考察」1981.11
- 第63回日本病院管理学会月例研究会報告書「レントゲン撮影による被曝の影響を誇大妄想して担当医師を殺害した事件をめぐって」1982.1
- 第20回日本病院管理学会「創刊以来の「病院管理」掲載論文の推移についての一考察」「医療従事者の被曝線量の低減傾向に関連する諸因子の分析」1982.10
- 日本保健物理学会第19回研究発表会「体内カリウムおよびセシウム - 137の時系列解析」「原子力発電所周辺放射線量の変動の解析」1984.6
- 日本放射線影響学会第27回大会「自然放射線とガン死亡の相関に関する研究(第1報)」「英国に滞在した日本人家族のその後の体内セシウム - 137負荷量」1984.9
- 日本病院管理学会第22回総会「自然放射線量の地域差と癌死亡率の相関に関する研究」「中央病歴化における諸問題」1984.10
- 日本放射線影響学会第28回大会「自然放射線とガン死亡の相関に関する研究(第2報)」  
1985.10
- 日本保健物理学会第20回研究発表会「大学医療従事者の診療行為に併なう被曝線量」「生活上被曝する自然放射線量の継続測定」「悪臭の分解法を目的として放射性物質を添加した「解臭体」からの放射線量の評価」1985.5
- 第24回日本病院管理学会「核医学診断に伴う被験者の放射線被曝線量の評価」1986.10
- 日本保健物理学会第21回研究発表会「東大ヒューマン・カウンターのプラスチック検出系諸元の経年変化」1986.6
- 第26回日本病院管理学会「TL-201投与に伴う放射線被曝の検討」「エックス線撮影に伴う放射

- 線被曝に対する不安」1988.10
- 第27回日本病院管理学会「医療廃棄物の調査」1989.11
- 第29回日本病院管理学会「医師の診療行為に伴う放射線被曝」1991.10
- 第30回日本病院管理学会「医療と生活の中の放射線に関する調査」1992
- 第27回日本保健物理学会「医師の診療行為に伴う放射線被曝」1992.6
- 第30回理工学における同位元素研究発表会「拭き取り（スメア法）試験装置試作による技術的改善」1993.7
- 第54回日本医学放射線学会「一般公開ラウンド・テーブル・ディスカッション「医療被曝を考える 利用と防護」 放射線防護の専門家集団への期待 」1995.4
- 第35回日本病院管理学会「初等・中等教育における理科教育の現状と問題（教科書に見られる放射線・放射能の記述に関する調査）」1997.10
- 日本保健物理学会第34回研究発表「初等・中等教育における合理的な放射線・放射能の教育法に関する調査研究」1999.5
- 第36回理工学における同位元素研究発表会「計数効率の体格依存性補償機能付き簡易型ヒューマン・カウンターの開発」2000.7

